

第124回日商簿記2級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
満期保有目的債券	未収入金	仮払消費税	車両
建物	支払手形	買掛金	未払金
修繕引当金	前受金	仮受消費税	未払消費税
車両減価償却累計額	仕入	減価償却費	修繕費
租税公課	発送費	固定資産売却損	売上
有価証券利息	固定資産売却益		

1. 当期首に営業用建物（取得原価 ¥ 10,000,000、残存価額 ¥ 1,000,000、耐用年数 10 年、定額法による減価償却、間接法により記帳）の修繕を行い、代金 ¥ 1,400,000 のうち ¥ 800,000 については小切手を振り出して支払い、残額は月末に支払うこととした。なお、このうち ¥ 500,000 については建物の耐震構造を強化する効果があると認められた。また、修繕引当金の残高は ¥ 200,000 である。
2. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)
3. 決算にさいして、消費税の納付額 ¥ 200,000 を計算し、これを確定した。なお、消費税の会計処理は税込方式によっている。
4. 平成 21 年 6 月 12 日に売買目的で浅田産業株式会社の社債（額面：¥ 5,000,000）を額面 ¥ 100 につき ¥ 95.45 で買い入れ、代金は証券会社への手数料 ¥ 5,000 および端数利息とともに小切手を振り出して支払った。なお、この社債の利率は年 2.57%、利払日は 3 月末日と 9 月末日の年 2 回である。また、端数利息の金額については、1 年を 365 日として日割で計算する。
5. 営業用車両（取得原価：¥ 2,000,000、残存価額：¥ 200,000、前期末における減価償却累計額：¥ 1,200,000、生産高比例法による減価償却、見積総走行可能距離：150,000km）を下取りさせて、新たな営業用車両（購入価額：¥ 3,000,000）を購入した。なお、旧車両の当期の走行距離は 15,000km、下取り価額は ¥ 100,000 で、購入価額との差額は月末に支払うこととした。